

令和6年度 和光市立北原小学校 学校経営計画

校長 樋口 普美子

1 学校教育目標の設定方針

人権尊重の精神を基調とし、心身ともに健康で、社会変化に主体的に対応し、地域、世界の平和と発展に寄与できる、人として調和のとれた児童の育成を目指す。

和光市立北原小学校 学校教育目標

【 知 徳 体 絆 】

知 …… かしこさ 「よく考え行動する子」

- 1 学びへの意欲をもち、学びの基本を身に付け、筋道立てて考え（思考力）、あらゆる物事に対して正しく判断し（判断力）、適切に表現できる（表現力）。
- 2 既習事項や体験を活用し、よりよく問題解決ができる。
- 3 「今何をすべきか」「これからどう生きていくか」主体的に考え、言語活動を十分に活用し、学びを広げ、深めることができる。
- 4 学習環境、教材、ICTを活用し、知識、技能、判断力、表現力を総合的に高めることができる。

徳 …… やさしさ 「仲よく助け合う子」

- 1 全ての人間関係の基本「あいさつ」ができる。
- 2 正しい言葉遣いができる。
- 3 自分のよさに気付き、自分の可能性を信じて、自分を大切にすることができる。
- 4 相手を思いやり、仲間を大切にすることができる。
- 5 共生、共働の重要性を理解し、相手を大切にすることができる。

体 …… たくましさ 「健康でたくましい子」

- 1 健全な食生活や生活習慣を身に付け、健康な生活をおくることができる。
- 2 運動や遊びに親しみをもち、目標を持って体を鍛えることができる。
- 3 目標に向かって粘り強く取り組み、あらゆる困難に負けないたくましい心を持つことができる。
- 4 疾病、怪我の予防に対する意識を高め、主体的に自らの健康維持と増進に励むことができる。

絆 …… つながり 「地域を大切にする子」

- 1 地域の人々との関わりを通して、自分と地域とのつながりに気付き、大切にすることができる。
- 2 地域社会の思いや願いを知り、地域の一員として活動することができる。

2 学校経営の基本理念

学校の使命は、全ての児童の「よさ」を見出し、自分を大切な存在としてとらえ、学びを通して自己を高めることを楽しむ児童を育成することであると認識し、家庭・地域・社会の願いに耳を傾け、「学校の主人公は一人ひとりの児童である」ことを大前提に、昨年度までの「3がいのある学校」(※)づくりをベースに置き、

きたはらっ子の育成

を目指す。「きたはらっ子の育成」とは、子供たち一人ひとりが持つよさと可能性を認め、全ての児童の個性を最大限に伸ばす、達成すべき学校のコンセプトを端的に表したものである。

① き 気持ちのよいあいさつ・言葉遣いをします

礼儀は、相手の人格を尊重し、相手に対して敬愛する気持ちを具体的に示すものであり、人間関係を豊かにして社会生活を円滑にするために、なくてはならないものである。挨拶をはじめとする行為を、真心込めて行い、相手や場所をわきまえ、伝える児童を育成するために様々な教育活動を家庭・地域と協働して行い、「北原小学校に通わせてよかった」「世界で一番素敵な私の学校」との思いをもってもらえる学校づくりを目指す。

② た 互いを思いやり、相手を大切にします

望ましい人間関係を築きながら学校生活を送る上で、互いが相手に対して思いやりの心をもって相手を大切に接することはとても重要である。そのためには相手の存在を受け入れ、相手のよさを見出そうとする姿勢が求められる。相手の立場や気持ちを思いやり、相手のよさを生かす行動を考え、実行する児童の育成を図るために、学校で過ごす時間が安心・安全で安らぎに満ちたものであり、新しい出会いを求めて、児童が「今日も学校へ行こう！」と思える学校づくりを目指す。

③ は 励まし高め合う仲間をつくります

友達や仲間は、同じ時間軸を生き、子供たちに大きな影響を与える深い関わりをもつ存在であり、共に学校生活を送ることで互いの成長を高める大切な存在である。「す(すんで)・い(っしょに)・じ(っくりと)」を大切にしたい授業や様々な生活の場面で、互いを認め合い、協力し、信頼感を育てていく児童の育成を通して、自己有用感を育み、互いに支え合いながら課題を解決するための資質・能力を身に付けられる学校づくりを目指す。

④ ら 「らしさ」を大切に相手へのリスペクトを表します

豊かな社会をつくる原動力は多様性であり、違いを受け入れ、互いの考えやよさを認め、理解しながら高める関係を築くことは、多くの出会いや交流が持てる学校生活の最大の醍醐味である。自分の考えをもち、立場や考え、意見が異なる時も、互いを尊重し、協調できる方法を見出し、広がりや深まりのある人間関係を構築する児童の育成を通して、本校に関わる各々の人の well-being を高められる学校づくりを目指す。

これらの考え方のもと、豊かな人間性に根ざした学力や体力を、学校生活全般を通して個々に応じて育み、心身ともに健康な児童の育成を一貫して行うことを、本校の学校経営における最も基本となる理念とする。

※「3がいのある学校」

- ①一人一人の居場所づくりから「通い甲斐のある学校」へ
- ②家庭や地域との協働的な教育活動で「通わせ甲斐のある学校」
- ③意識改革を足掛かりに「働き甲斐のある学校」に

3 目指す学校像

～ 「あい」と絆で未来を拓く北原小学校 ～

- 学び合い 「わかる・できる喜びがあふれる学校」
- 認め合い 「心が響き合う学校」
- 磨き合い 「活力ある学校」
- 支え合い 「安全・安心で互いに繋がっている学校」
- 出会い・触れ合い 「本物との出会いと体験を大切にしている学校」

4 目指す教職員像

(1) 子供、保護者、地域との確かな信頼関係を構築する教職員

- ① 「未来を育てる」責任として、1年後の児童の変容を見通し、教育活動の成果を示す。
- ② 目的意識をもって教育活動を展開し、情報発信や説明責任を果たす。
- ③ 社会に開かれた教育課程を実施し、自ら進んで学校運営に参画する。
- ④ 教育公務員としての責務を自覚し、行動し、互いに声をかけ、倫理観を高く持つ。

(2) 教育への確固たる信念と情熱、創意工夫とたゆまぬ向上心をもつ教職員

- ① 日常の学習指導や職務を通して学ぶ姿勢を大切に、日々指導力や実践力を研鑽する。
- ② 共に学び合う姿勢をもち、授業研修を核として質の高い授業のイメージを共有する。
- ③ 自校外にも学びの場を見つけ、その成果や情報を教職員全体で共有する。

(3) 子供を主人公に、一人ひとりが安心して生活できる環境づくりをする教職員

- ① 「わかる・できる喜び」が「楽しい授業」に直結することを意識し、す・い・じを大切に授業づくりを推進する。
→ 進んで学ぶ学習、一緒に学ぶ学習、じっくり学ぶ学習（主体的・対話的で深い学び）
- ② 子供一人ひとりにスポットライトをあてた教育活動を工夫する。
- ③ 「いじめの定義」を教職員が共有し、いじめに対して全ての教職員が毅然とした態度で対応するとともに、組織的に未然防止や早期発見・早期解消を図る。

(4) より良く生きたいと希求する先達として、児童の率先垂範をする教職員

- ① 教育公務員としての自覚・服務規律の遵守順守・社会人のモラルとマナーを備える。
- ② 教師の言動が子供の「範」となり、本校での経験が学校に対するイメージとなることを強く自覚し、服装・言葉づかい・言動・環境整備に留意する。
- ③ 答えのない問題に対処すべく、瑞々しい感性と自由な発想を大切に、より良い策を持って取り組む姿勢を自ら子供に示す。

(5) 本物との出会いと学びの過程の把握を行い、学ぶ意欲を高める教職員

- ① 子供の心が動く瞬間から授業を組み立て、学習後の変容を児童が表現できる授業を目指す。
- ② 地域・保護者との協力し、本物との出会い、体験を計画し、学びを生活や社会に生かす指導計画を立案する。
- ③ よき本と出会わせ、光る言葉、自分を支える言葉が残る読書活動を推進する。

(6) チーム「北原」の一員であることを自覚し、自他のよさを引出し、高める教職員

- ① 教職員としての経験、個人の経験、考え、自分のよさは他に替えられない大きな魅力であることを自覚し、学校課題解決に向けた自身の発想を大切にして、学校経営に参画する。
- ② 喜びも悩みも教職員皆で分かち合い、居心地のよい職場をつくるためにできることを実施する。
- ③ 心と体は一体であり、人に寄り添う教職は自らにゆとりが必要であることを自覚し、心身の健康

に役立つ方策を展開する。

④ 限られた時間をどう使うことが最も有益か、チームの一員として考え、適切に行動する。

5 互いに繋がる地域像

学校と協働する地域	1 学校運営協議会の活用。 2 「さざんかの会」「学校応援団」による教育支援。
子供を見守る・育てる地域	1 見守り活動による児童の登下校の安全確保。 2 校区の「子供を守る家」の位置の確認と周知。
学校と共に学び合う地域	1 地域人材の活用。(多様な文化・知恵の伝承、学校ファーム等) 2 地域の教材化。(地域の文化財、自然の活用)
子供の帰属意識が高い地域	1 地域へのボランティア活動。 2 地域活動、行事への理解と参画。(桜祭、夏祭、社会科見学等)

6 「目指す学校像」実現のための取組目標と達成に向けた方策

目指す学校像	取組目標	達成に向けた方策
<学び合い> わかる・できる 喜びがあふれる 学校	・ 持続可能な社会の 創り手として必要な エージェンシーの育 成	○ 学習指導要領の着実な実施を図る。 (す・い・じを大切にした授業の実施) ○ 各学年の基礎的・基本的学習内容の定着を図る。 ○ 教科担任制を生かして学習活動の質的向上を図る。 ○ ICT活用を通じた学習活動の深化を図る。
<認め合い> 心が響き合う学 校	・ 人権尊重の精神に根 ざした、豊かな人間 性の育成	○ 多様性を認め、高め合える人間関係の構築を図る。 ○ 全教育活動における道徳教育の着実な実施による 心の教育の推進を図る。 ○ 生徒指導、教育相談の実効的充実を図る。
<磨き合い> 活力ある学校	・ 目標に向かって忍耐 強く体力づくりに取 り組むことができる 児童の育成	○ 達成感・充実感を児童と教員が共有できる体育授業 の展開を図る。 ○ 学校医と連携した健康教育の充実を図る。 ○ 食文化を大切にしながら、地域に根差した食育の推 進を図る。
<支え合い> 安全・安心で互 いに結ばれてい る学校	・ 地域が好きと言える 児童の育成	○ 地域ステーションとしての学校の確立を図る。 ○ 地域を活用して教育活動の充実を図る。 ○ 児童自身の「自分の命は自分で守る」という意識を 高める。
<出会い・触れ 合い> 本物との出会 い、触れ合いを 大切にする学校	・ 感動を伝えられる児 童の育成	○ 司書教諭を中心に図書館アドバイザーとも連携し ながら、読書活動の一層の定着を図る。 ○ 児童の心が動く瞬間から授業を組み立て、地域・家 庭との協力を得て、体験活動の充実を図る。 ○ 学校、学区内の自然や季節の移ろいに触れさせ、育 てることの喜びを経験させる。

7 今年度の重点（指標）

	取組目標	重点目標	具体的な重点と指標（例）
1 学 び 合 い	<p>持続可能な社会の創り手として必要なエージェンシーの育成</p> <p>「エージェンシー」とは、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自ら考え、主体的に行動して、責任をもって社会変革を実現していく力 ・将来的な目標を見据える力 ・批判的思考力 ・現状に疑問を持つ力 等 	<p>・基礎基本の定着による達成感や学習意欲の向上</p>	<p>重点①「自己有用感・自己肯定感」をはぐくむ授業改善の推進</p> <p>重点②主体的・対話的で深い学びを実現させる授業（進んで学ぶ、一緒に学ぶ、じっくり学ぶ）の推進による基礎学力の定着</p> <p>重点③週2日の朝読書や図書室の効果的な活用による語彙力、思考力の向上</p> <p>指標①「授業が楽しい、満足だ」と答える児童の割合</p> <p>指標②基礎基本の重点事項に設定した知識・技能の達成率</p> <p>指標③児童の読書冊数、図書室利用回数平均、学習における書籍活用率</p>
		<p>・教育DXの推進</p>	<p>重点①ICTを活用した学習内容の深化</p> <p>重点②情報活用能力及びプログラミング的思考の育成</p> <p>重点③情報リテラシー教育の充実</p> <p>指標①児童一人当たりの1日のICT活用回数平均</p> <p>指標②プログラミング教育の実施時数</p> <p>指標③情報リテラシー教育の実施回数</p>
2 認 め 合 い	<p>人権尊重の精神に根差した、豊かな人間性の育成</p>	<p>・全教育活動を通じた、道徳性の育成</p>	<p>重点①多様な指導方法を用いた児童にとって学びの担保された道徳科の実践</p> <p>重点②教育活動の様々な場面での「自己有用感」を育む道徳的実践の場の意図的な設定</p> <p>重点③個々の児童理解に基づく、正しい判断力や望ましい表現力等が定着する集団づくり</p> <p>指標①「道徳の授業は役に立つ」と答える児童の割合</p> <p>指標②道徳教育の重点目標に係る道徳教育全体計画別葉の活用率</p> <p>指標③教育的ニーズのある児童に資する関係者等員との連携率</p>
		<p>・児童理解に基づく生徒指導・教育相談の充実</p>	<p>重点①いじめ防止基本方針をもとにした、いじめに係る指導の徹底</p> <p>重点②新たな不登校児童を生まない組織的な働きかけの徹底</p> <p>重点③全教職員の共通理解を土台とした規範意識や学習規律に係る指導の徹底</p> <p>指標①いじめの解消率、いじめ問題に係る会議、研修等の実施回数</p> <p>指標②新たな不登校児童発生数、不登校問題に係る会議研修等の実施回数</p> <p>指標③規律ある態度の関連項目達成率</p>

3 磨き合い	目標に向かって粘り強く体力づくりに取り組むことができる児童の育成	・心身ともに健康に過ごすために必要な自己調整力の向上	重点①体育科や外で遊ぶ機会等を活用した、主体的な体力の向上 重点②基本的な感染症対策の徹底等、継続した体調管理と規則的な生活リズムの習慣化 重点③栄養職員と連携・協力した組織的な栄養指導等、食育の推進 指標①新体力テストの総合評価向上率 指標②疾病通知の治療率 指標③食育に関連した指導時間数、給食の残食率
4 支え合い	地域が好きと言える児の育成	・地域との協働意識の醸成	重点①地域人材の積極的な活用 重点②児童の郷土を愛する心の育成 重点③有事の際の児童自身の事故回避能力の育成 指標①学校応援団等、外部人材の活用回数 指標②地域を活用した学習活動の実施回数 指標③安全教育や避難訓練前後の指導回数、初期行動の定着率
5 出会い・触れ合い	感動を伝えられる児童の育成	・豊かな心の育成	重点①週2日の朝読書や図書室の効果的な活用による語彙力、思考力の向上 重点②児童の自然を愛する心の育成 重点③体験活動の充実 指標①児童の読書冊数、図書室利用回数平均、学習における書籍利用率 指標②地域自然を活用した学習活動の実施回数 指標③体験活動の実施回数

その他の重点項目		今年度の重点
6 研究・研修	校内研修の充実	○目指す学校像の実現に向けた実践的指導力、授業力の向上を図る。 ・全教員参画による校内重点研究の充実 令和5・6・7年度和光市教育委員会研究委嘱（本年度2年目） <研究主題> <u>自分を見つめ、他者を認め、未来を創る児童の育成</u> <u>～自己肯定感を高める教育活動の工夫を通して～</u> ・夏季休業中の研修内容の精選、充実
7 働き方改革	必要に応じた校務の見直し	○ここまでの取組をブラッシュアップし、必要に応じて見直しや取捨選択を行う。 ・校務に係る時間対効果、費用対効果を意識した取捨選択 ・より効果的な教科担任制の実施 ・勤務時間の適正化（時間外勤務について月45時間未満、年360時間未満の徹底）